

## 平和のバトン

沖縄県立八重山高等学校一年 大城 洋輔

青い空

七色に輝く海

雲一つない空が私を包む

あの日も空は見えていただろうか

海はその音を聴いていただろうか

あの日のことを覚えていたのだろうか

今から七十八年前のあの日のことを

沖縄戦のまったただ中

恐怖に慄いた日々

ただただ、逃げ回った人々

住み慣れた家も 心を通わせた友達も

まるで虫けらのようにつるされ殺された

今もどこにあつたのか どこにいるのかわからない

迫りくる艦砲射撃

ひっきりなしに落ちてくる爆弾

近づいてくる戦車の音

罪もない沖縄の人々は

何故、犠牲にならなくてはいけなかったのか

喪失感に包まれたすがた

未来が見えない

今を生きることが精一杯

もしも 今 戦争がおきたら

どうなるのだろうか

この沖縄はどうなるのだろうか

また攻撃されるのだろうか

思わず私は、おそろしさに震えた

戦争は沖縄に何を遺したのか

ただただ、深い悲しみだけ

底の見えない苦しみだけ

もう忘れたよ 遠い昔のことだから

嘉手納に住む九十七歳の曾祖母の口癖

本音は

思い出したくない戦争

最愛の夫を奪った戦争だから

家族の幸せを 儚く奪い去った戦争だから

今年もあの日がやってくる

毎年 この日

曾祖母の瞳からは大粒の涙がこぼれる

何度 この日を迎えても

思いは変わらない

何故 戦争をしたの

私の幸せを返して

命尽きるまで きっと問い続けるだろう

私達は、曾祖母の思いを

このままにしてはいけない

この思いを風化させてはいけない

今度は私達の番だ

今 バトンを受け取り

沖縄から発信したい

武器をペンに換え

他者を尊重し、話し合いで解決しようとする

平和な世界に

たゆむことなく

発信したい

やっと 勝ち取った平和だから

この平和がずっと続くよう

平和のバトンを受け取った私達が

この沖縄から全世界へ

平和を発信したい

私達、高校生は、微力ではあるが

無力ではない

沖縄の明日の為に

平和の大切さを発信したい

Peace is great.